CSポートフォリオ活用の手引き

※本資料では、法律(地教行法第47条の5)に基づいて教育委員会が学校に設置する学校運営協議会 および学校運営協議会が置かれた学校をコミュニティ・スクール(以下、CS)と表記しています。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング





I. CSポートフォリオとは何か? ・・・・2

II. CSポートフォリオの成り立ち・・・・・9

Ⅲ. 結果の読み取り方 ・・・・23

IV. 読み取りのワーク① ····32

V. 読み取りのワーク② ····36

おわりに ・・・・41

I. CSポートフォリオとは何か?





CSの導入や運営に際し、こんな声はありませんか?

学校運営 協議会

- ・本校の学校運営協議会って、適切に運営できているのだろうか?
- 学校運営に活かされる協議には、何を改善すればいいのだろうか?

学校

- ・CSを導入したが、本校の教育活動にどのような効果があるの?
- ・教職員の理解が得られにくいが、課題(改善点)はどこにあるの?

地域

- ずっと協働活動に関わっているけど、このままの関わり方でいいの?
- 「学校を核とした地域づくり」って、どんな効果が期待できるの?

このような声に応えるために、作成したのがCSポートフォリオ





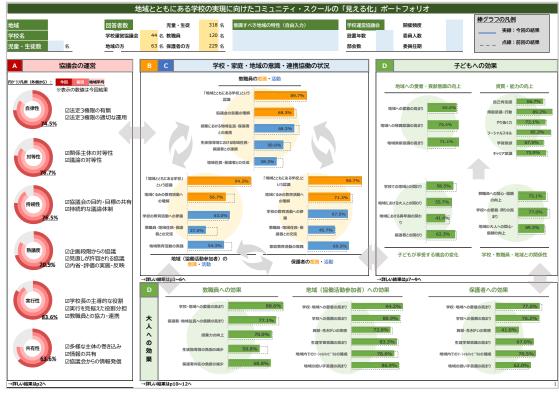
CSポートフォリオとは?

CSに取り組んでいる(取り組もうとしている)学校の

- ★CSの運営状態やCSの生み出す成果を可視化し、
- ★今後の学校運営や協働活動の改善に向けた「次なる一手」の検討

につなげていくための

自己診断 ツール (美健康診断)







こうした状態を放置しておくと、、CSは徐々に辛くなっていく?



- OCSの目的が漠然としていて何から 始めればよいのか不明
- 〇協議会での議論内容にあまり関心 を持てない…



- 〇議論は議題の承認のみ…
- 〇議論は学校運営に生かされていない。。



Oとりあえず学校参画しているが大変だ・・・

〇自分たちの活動は役に立っているの?



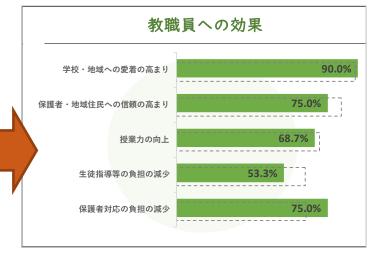


CSポートフォリオを使って、こう変わる

学校におけるCSポートフォリオ活用例①関係者の意識は?/協議会の在り方は?

В	教職員の意識		自校の結果		
	327 1772 5 183474		今回	地域比	
			割合(%)	差(pt)	
協議会の意義の理解			72.7%	0.8pt	
教 5	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に	確認している	63.3%	-9.5pt	
教 6	協議会での協議・決定事項に関心がある		76.7%	-1.4pt	

٨	協議会の運営	自校の結果		
A	協議会の建名	今回	地域比	
		割合(%)	差(pt)	
共有	±	75.0%	-1.5pt	
協 2	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	66.7%	15.7pt	
協 2	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解して	100.0%	7.9pt	
協 2	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	88.9%	7.0pt	
協 2	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	44.4%	-36.6pt	



教職員の協議会に対する意識の低さが、最終的な教職員の効果実感も低くしている印象 そもそも協議会の運営における情報共有が少ないので教職員の意識も上がらない?

管理職側:教職員の負担になると思い、あえて情報提供していなかった

教職員側:情報が欲しかったがもらえておらず、協議会のことが良く分からずにいた

認識のずれが明らかになり、その後の協議会運営の改善につながった



CSポートフォリオを使って、こう変わる

◆ 学校におけるCSポートフォリオ活用例②目標の共有はできているか?

D	子ども:資質・能力の向上	自校の結果			
U	丁CU・貝貝・配力の円工	今回	地域比		
		割合(%)	差(pt)		
ソーシャ	ァルスキル	94.1%	8.4pt		
子 35	近所や知り合いの人にあいさつする	100.0%	9.9pt		
子 36	先生や友達が話している時に、最後まで聞くことができる	94.1%	2.0pt		
子 37	他の人と異なる意見でも、自分の意見を言える	88.2%	12.7pt		
子 38	誰とでも協力をしてグループ活動をする	94.1%	8.8pt		

子どもの自己評価では、「近所や知り合いの人にあいさつする」 ができていると思っている児童が100%で非常に割合が高い! 一方、関係者の議論では、大人はそう感じていないことが判明

なぜギャップが?どのような場面で、どんな挨拶ができるようになってほしいのか、 言語化して子どもたちにも伝えていく必要があるのではないか?という議論に

CSの目標の再確認、子どもへの問いかけ方法(協働活動の仕方) の見直しにつながった





「データ」と「対話」が両輪 ~CSポートフォリオを使って、こう変わる~

◆ポートフォリオを使って「次なる一手」に気付くためには、

データ (客観的情報) と 対話 (主観的解釈) のセットが重要です。



→紹介した事例はいずれも、

データに基づき

対話を行ったことで、

「次なる一手」を見出していました。



II. CSポートフォリオの成り立ち

◆ CSの状態や成果(目標)をどう測ろうとしているのか?





CSの成果(目標)とは?

◆ CSの成果(目標)とは、、、

児童・生徒の

資質·能力?

教職員の 多忙化の解消?

保護者の 学校への愛着?

児童・生徒の 地域への愛着? 地域住民の 学校参画?

地域住民の 生きがい・つながりの醸成?

→CSの成果(目標)は多様





CSの成果(目標の達成状況)をどう測るか?

◆ 活動の改善につなげるために、どのように測るか?

いわゆる「学力テスト」や学校評価 →生徒個々の学力(成果:目標)などは測定できるが、それを左右した要因までは測定していない。 測定範囲 教育活動 生徒の「学力」 学習意欲·態度 プログラム 学校満足度 →生徒の資質・能力等の「CSの成果 (目標) 」の測定に加え、その要因となる「学校運営協議会 CSポートフォリオ(アンケート) (組織)の状態」や「関係者の意識・活動」 も定量的に可視化 →組織的な活動の改善が「客観的数値」に基づいて可能に 測定範囲 (成果) 測定範囲 (状態・活動) 学校運営協議会 生徒の資質・能力 (組織) の運営状態 1 1 関係者の 生徒の能力発揮 意識·活動

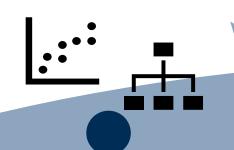
> この繋がりを読み解くことが、 「取組の改善」に繋がります!



個別指標の検討

◆「CSの成果(目標)」に影響を及ぼす要因を指標化するため、様々な調査を実施









- CSマイスターへのインタビュー
- CS導入校の校長や教育委員会へのインタビュー

指標の構造化

- 各指標の整理・構造化
- ●指標間の相関関係の分析
- 有識者検討会での協議

文献から要因・指標を抽出

- ◆CSの成果・効果に関する調

 査研究
- 教育心理学等の学術研究





CSの成果発現までの構造化

- 成果発現までの要素を組み込んだ構造
- CSで期待される多様な成果・目標(D)に関係する指標として「関係者の意識・活動」(B・C)を位置づけ、 また、それらと関係する「協議会運営の状態」(A)を明確化
 - →A~Dの繋がりを考えることによって、成果改善に向けた「次なる一手」の手がかりが得られる

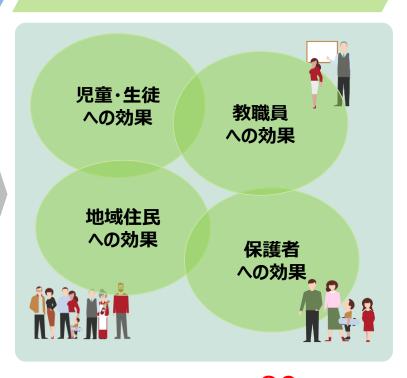
【A】協議会運営の 状態

【B·C】関係者の意識・活動

【D】CSの成果







【計6項目27指標】

【3主体で計15項目51指標】

【4主体で計26項目80指標】





複数のCS関係者に対して、アンケート調査を実施

▶ 設定した指標について、アンケート調査を実施

✓ 3つの要素(CSの効果、関係者の意識・活動、協議会運営)に設定した指標について、CS関係者 (協議会委員、教職員、地域住民、保護者、児童・生徒) に対するアンケート調査を行います。

5つの主体× 3 つの要素 でアンケート項目を構成しています。

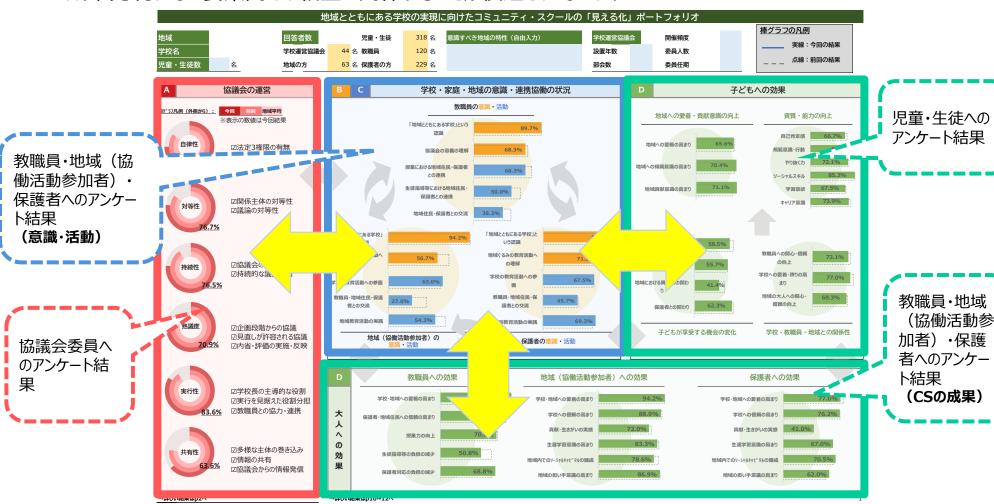
	協議会委員	教職員	地域住民	保護者	児童·生徒
CSの効果	_	・学校・地域への愛着 の高まり ・授業負担の減少 など	・学校・地域への愛着 の高まり ・貢献・生きがいの実感 など	・学校・地域への愛着 の高まり ・貢献・生きがいの実感 など	・資質・能力の向上 ・地域への愛着・貢献 意識の向上 ・学校・教職員・地域と の関係性
関係者の 意識・活動	_	意識 ・「地域とともにある学 校」という認識 など 活動 ・授業における地域・保 護者との連携 など	意識 ・「地域とともにある学 校」という認識 など 活動 ・学校の教育活動への 参画 など	意識 ・「地域とともにある学 校」という意識 など 活動 ・家庭教育活動の実 践 など	_
協議会運営 の状態	・自律性 ・熟議度・対等性 ・実行性・持続性 ・共有性(※内容は後述)				





CSの評価ツール: CSポートフォリオ

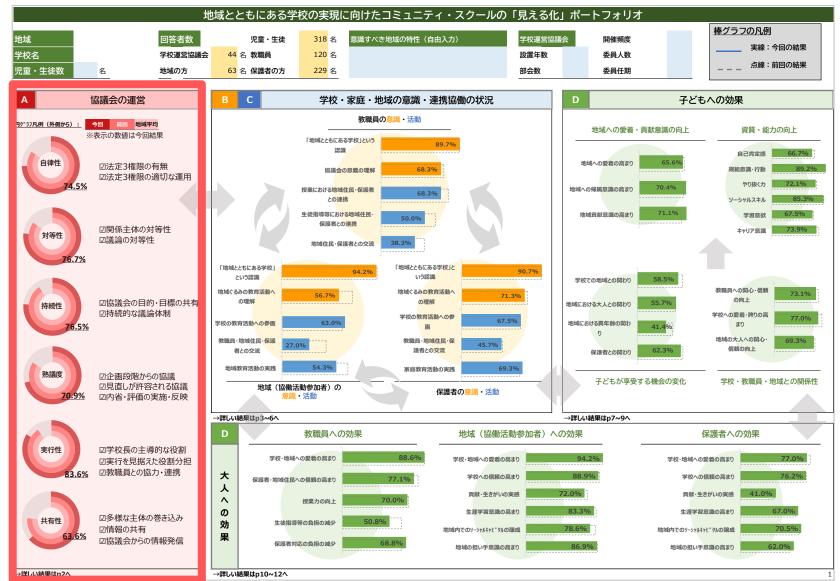
- ◆ それぞれのアンケート結果をとりまとめたものが「CSポートフォリオ」
- ✓ 成果発現までの要素間は、相互に関係することが検証されています







参考: 「協議会の運営」指標の構成要素







参考: 「協議会の運営」指標の構成要素

✓ 「協議会の運営」指標は、以下の6つの要素にて構成されています。



【構成要素】

- ・法定3権限の有無
- ・法定3権限の適切な運用

(法定3権限を有しているか等、協 議会として自律的に議論する機能 があるかを測る指標です)



【構成要素】

- ・企画段階からの協議
- ・見直しが許容される協議
- ・内省・評価の実施・反映

(議題の確認や承認だけではなく、 時に見直しを行うなど、深い議論 ができているかを測る指標です)



【構成要素】

- ・関係主体の関係性
- ・議論の対等性

(協議会参加者の間で、対等な議論 ができているかを測る指標です)



【構成要素】

- 学校長の主導的役割
- ・実行を見据えた役割分担
- ・教職員との協力・連携

(協議会で決まったことが、実行までつながっているかを測る指標です)



【構成要素】

- ・協議会の目的・目標の共有
- ・持続的な議論体制

(教職員の異動に関わらず、持続的 に議論ができる体制になっている かを測る指標です)



【構成要素】

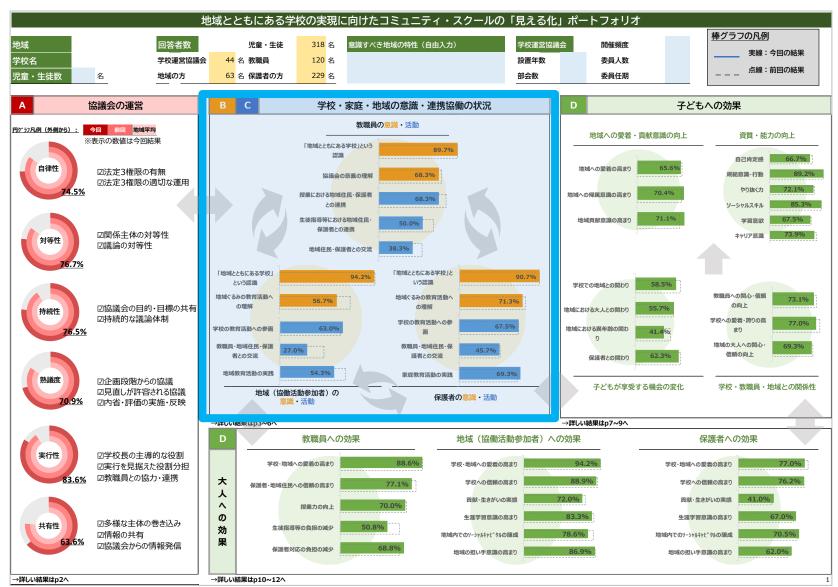
- ・多様な主体の巻き込み
- ・情報の共有
- ・協議会からの情報発信

(協議会の協議事項が、周知・共有 されているかを測る指標です)





参考:「関係者の意識・活動」指標の構成要素







参考:「関係者の意識・活動」指標の構成要素

✓ 「関係者の意識・活動」指標は、教職員・地域(協働活動参加者)・保護者の3者について、以下に示す要素にて構成されています。

教職員 の意識

【構成要素】

- ・「地域とともにある学校」 という認識
- ・協議会の意義の理解

教職員 の活動

【構成要素】

- ・授業における地域住民・保護者 との連携
- ・生徒指導・生活指導における 地域住民・保護者との連携
- ・地域住民・保護者との交流

地域の意識

【構成要素】

- ・「地域とともにある学校」 という認識
- ・地域ぐるみの教育活動への理解

地域の活動

【構成要素】

- ・学校の教育活動への参画
- 教職員・地域住民・保護者との 交流
- ・地域教育活動の実践

保護者 の意識

【構成要素】

- ・「地域とともにある学校」 という認識
- ・地域ぐるみの教育活動への理解

保護者 の活動

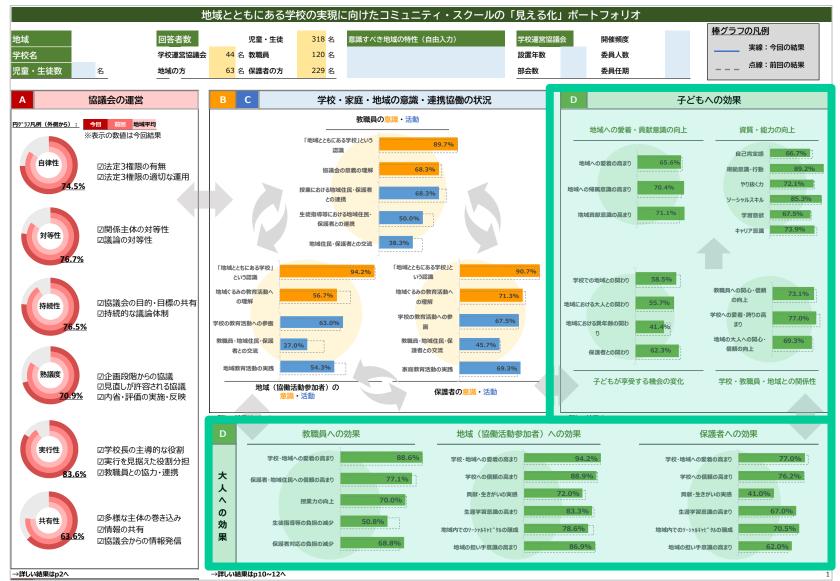
【構成要素】

- ・学校の教育活動への参画
- ・教職員・地域住民・保護者との 交流
- 家庭教育活動の実践





参考:「CSの成果」指標の構成要素







参考:「CSの成果」指標の構成要素

✓「CSの効果」指標は、教職員・地域(協働活動参加者)及び保護者、子どもの4者について、以下に示す要素にて構成されています。

教職員への 効果

地域への

効果

【構成要素】

- ・学校・地域への愛着の高まり
- ・保護者・地域住民への信頼の高まり
- ・授業負担の減少
- ・授業力の向上
- 生徒指導・生活指導の負担の減少
- ・保護者対応の負担の減少

【構成要素】

- ・学校・地域への愛着の高まり
- ・学校への信頼の高まり
- ・貢献・生きがいの実感
- ・牛涯学習意識の高まり
- ・地域内でのソーシャルキャピタルの醸成
- ・地域の担い手意識の高まり

保護者への 効果

※地域(協働活動参加者)と保護者の効果指標は共通です

子どもへの 効果

【構成要素】

<資質・能力の向上>

- · 自己肯定感
- ・規範意識・行動
- やり抜く力
- ・ソーシャルスキル
- · 学習意欲
- キャリア意識

<地域への愛着・貢献意識の向上>

- ・地域への愛着の高まり
- ・地域への帰属意識の高まり
- ・地域貢献意識の高まり



<子どもが享受する機会の変化>

- ・学校での地域との関わり
- ・地域における大人との関わり
- ・地域における異年齢の関わり
- 保護者との関わり

<学校・教職員・地域との関係性>

- ・教職員への関心・信頼の向上
- ・学校への愛着・誇りの高まり
- ・地域の大人への関心・信頼の向上





本ポートフォリオの特徴と留意点

- ・本ポートフォリオを用いて「次なる一手」を打ちながらCSの改善を図っていくためには、学校 現場において継続的に利用できる必要があります。
- ・そこで、本ポートフォリオは以下の方針で設計しています。
 - ★無料で利用できる: googleフォームを利用
 - ★調査負荷を小さく: 全生徒・保護者を対象とせず、学校の状態を

特定学年(最上位学年等)で代表

- ・調査結果の読み取りにおいては、以下の点に留意が必要です。
 - ★学校運営協議会の委員、対象学年の生徒・保護者、教職員の調査において、 未回答者がいる場合は母集団の回答と誤差が発生することになります。 (例えば、100人の学年で許容誤差5%とするには80人の回答が必要です。)
 - ★経年変化をみる場合、調査対象自体が変化している(例えば、n年の6年生を 対象とした後に、n+1年の6年生を対象として変化をみる場合、母集団となる児童 自体が異なる)ことを踏まえて回答結果を読み取る必要があります。



Ⅲ. 結果の読み取り方

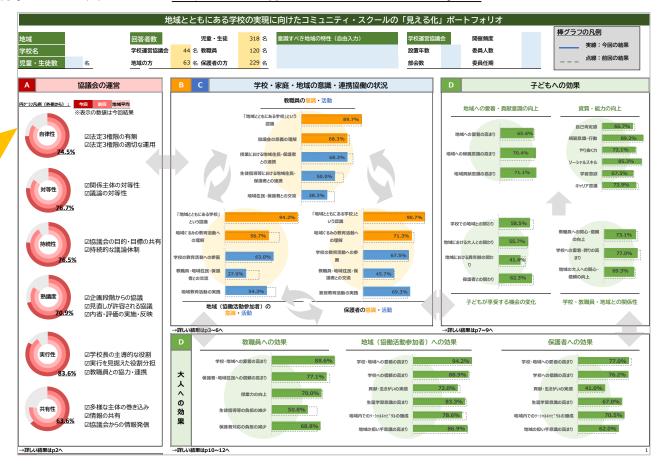




CSポートフォリオの構造(総括表)

- ✓ CSポートフォリオの1ページ目は総括表となっており、全体傾向を把握できます。
- ✓ 表示されているパーセンテージは、各質問(指標)についてアンケートで肯定的な回答をした者の割合です。
 (例:「4.あてはまる」「3.どちらかといえばあてはまる」「2.どちらかといえばあてはまらない」「1.あてはまらない」の4択のうち、肯定的回答である「4.」「3.」を選択肢した者の割合)
- ✓ 総括表では、個別の質問(指標)への回答ではなく、いくつかの指標をまとめた概念ごとの結果が示されています。

例えば、この「自律性」は、5つの指標をまとめた1つの概念となっています。

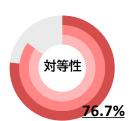






CSポートフォリオの構造(総括表)

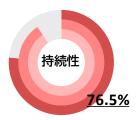




74.5%

☑関係主体の対等性 ☑議論の対等性

☑法定3権限の適切な運用



☑協議会の目的・目標の共有 ☑持続的な議論体制



☑企画段階からの協議 ☑見直しが許容される協議 ☑内省・評価の実施・反映 【A:協議会の運営】

- ✓ 協議会委員へのアンケート結果をグラフ化しています。
- ✓ 協議会運営の状態について、重要だと考えられる 6つの 要素ごとに表示されます。

外側の濃い赤: 自校の今回調査の結果

真ん中の少し薄い赤 : 自校の前回調査の結果

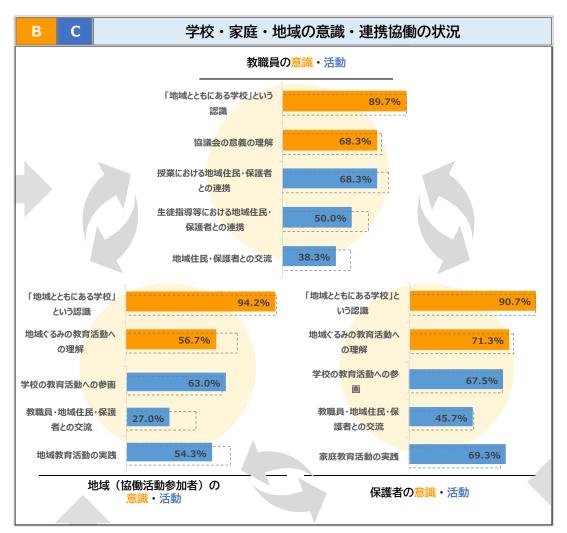
内側の薄い赤:地域平均値の結果

※地域平均値:複数校が同時に調査を実施した場合、調査を実施したすべての学校の平均値等を入れることができます





CSポートフォリオの構造 (総括表)



【B·C:学校·家庭·地域の意識·連携協働の 状況】

- ✓ 教職員・地域(協働活動参加者)・保護者へのアンケート結果のうち、「意識」や「活動」に関する指標をグラフ化しています。
- ✓ 関係者の意識や活動の状態について、<u>主体</u>
 <u>ごとに</u>表示されます。

オレンジの棒グラフ:各主体の<u>意識</u>に 関する、**自校の今回調査の結果**

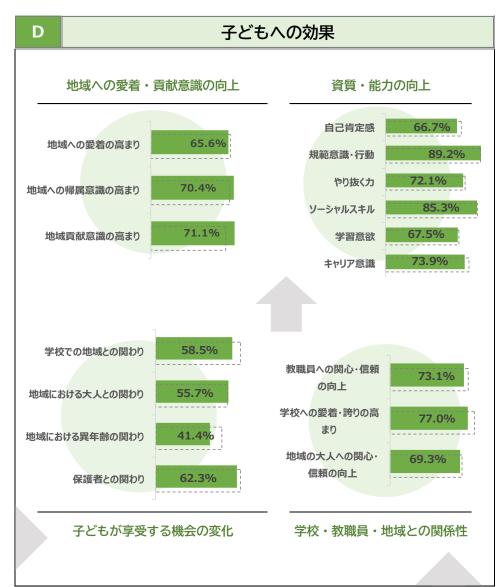
青の棒グラフ:各主体の<u>活動</u>に関する、 **自校の今回調査の結果**

破線の棒グラフ: それぞれについて、**自** 校の前回調査の結果





CSポートフォリオの構造(総括表)



【D(右上):子どもへの効果】

- ✓ 児童・生徒へのアンケート結果をグラフ化しています。
- ✓ 子どもへの効果として、資質・能力への影響等 が表示されます。

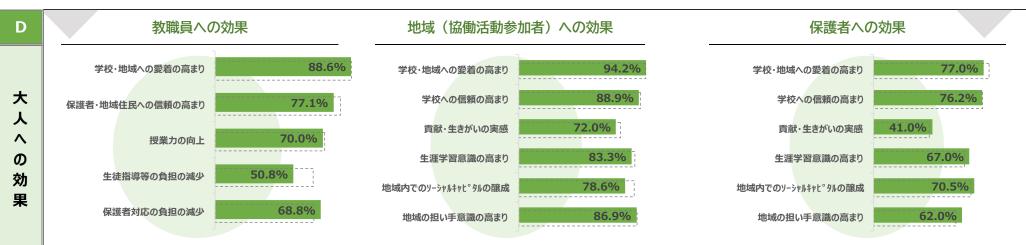
緑の棒グラフ: 自校の今回調査の結果

破線の棒グラフ: 自校の前回調査の結果





CSポートフォリオの構造(総括表)



【D(右下):大人への効果】

- ✓ 教職員・地域(協働活動参加者)・保護者へのアンケート結果のうち、「CSの成果」に関する指標をグラフ化しています。
- ✓ 大人の関係者への効果として、生きがいや地域への愛着等の項目が主体ごとに表示されます。

緑の棒グラフ: 自校の今回調査の結果

破線の棒グラフ: 自校の前回調査の結果





CSポートフォリオの構造(詳細表)

✓ ポートフォリオの2ページ以降では、アンケート設問ごとの詳細な回答結果をお示ししています。

	今回	前回比	地域比	地域平均	前々回	前回	今回	推移のグラフ
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)の推移
自律性	74.5%	-10.3pt	-10.3pt	84.8%	84.8%	84.8%	74.5%	自律性
協 2 学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	84.1%	-10.4pt	-10.4pt	94.5%	94.5%	94.5%	84.1%	
協 3 学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	95.5%	0.2pt	0.2pt	95.3%	95.3%	95.3%	95.5%	
協 4 教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	20.5%	-24.4pt	-24.4pt	44.9%	44.9%	44.9%	20.5%	
協 5 教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	79.5%	-11.2pt	-11.2pt	90.7%	90.7%	%	79.5%	
協 6 協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	93.2%	-5.3pt	-5.3pt	98.5%	98.5%	%	93.2%	
对等^{···}	76.7%	-8.3pt	-8.3pt	85.0%	25.00	10/	70 70/	1.100.10
協 .	68.2%	-14.0pt	-14.0pt	82.2%	ツカルカフ	CSポート	7+11+	大/cd:
設問ごとの詳しい回答結果(2ページ目以降)	72.7%	-1.6pt	-1.6pt	74.3%				
	81.8%	-6.5pt	-6.5pt	88.3%		での場合、		
協	84.1%	-10.9pt	-10.9pt	95.0%	回データ	アがありま	せんので、	該当
# ・ 冒頭のグラフから気になった点は、2ページ目以降、アンケート設問ごとの回答結果一覧を参照す	76.5%	-14.1pt	-14.1pt	90.6%	- 箇所は表示されません。			
○ 降、アンケート設問ごとの回答結果一覧を参照す ──	79.5%	-10.9pt	-10.9pt	90.4%	四//			
協力・スプレス・トロジェノ・タ項ロータンはの字能も	79.5%	-11.5pt	-11.5pt	91.0%				
ることで、より詳しく、各項目・各主体の実態を	79.5%	-13.2pt	-13.2pt	92.7%	92.7%	92.7%	79.5%	
^協 把握することができます	70.5%	-17.5pt	-17.5pt	88.0%	88.0%	88.0%	70.5%	
熟讀	70.9%	-13.3pt	-13.3pt	84.2%	84.2%	84.2%	70.9%	熟議度
協	68.2%	-5.0pt	-5.0pt	73.2%	73.2%	73.2%	68.2%	
協 10 子校側の提系事項を承認するにけではない、より良い子校連呂のにのに建設的に議論することかある	81.8%	-12.1pt	-12.1pt	93.9%	93.9%	93.9%	81.8%	
協 17 当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	56.8%	-22.5pt	-22.5pt	79.3%	79.3%	79.3%	56.8%	
協 18 協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	79.5%	-5.9pt	-5.9pt	85.4%	85.4%	85.4%	79.5%	
協 19 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	68.2%	-21.0pt	-21.0pt	89.2%	89.2%	89.2%	68.2%	
実行性	83.6%	-6.9pt	-6.9pt	90.5%	90.5%	90.5%	83.6%	実行性
協 20 学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	86.4%	0.4pt	0.4pt	86.0%	86.0%	86.0%	86.4%	
協 21 協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	88.6%	-7.3pt	-7.3pt	95.9%	95.9%	95.9%	88.6%	
協 22 議論の結果、各主体(学校・保護者・地域の大人等)が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	70.5%	-15.2pt	-15.2pt	85.7%	85.7%	85.7%	70.5%	
協 23 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	84.1%	-8.0pt	-8.0pt	92.1%	92.1%	92.1%	84.1%	
協 24 協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	88.6%	-4.1pt	-4.1pt	92.7%	92.7%	92.7%	88.6%	
共有性	63.6%	-12.9pt	-12.9pt	76.5%	76.5%	76.5%	63.6%	共有性
協 25 地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	45.5%	-5.5pt	-5.5pt	51.0%	51.0%	51.0%	45.5%	
協 26 学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	86.4%	-5.7pt	-5.7pt	92.1%	92.1%	92.1%	86.4%	
協 27 学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	65.9%	-16.0pt	-16.0pt	81.9%	81.9%	81.9%	65.9%	
協 28 協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	56.8%	-24.2pt	-24.2pt	81.0%	81.0%	81.0%	56.8%	





評価結果を読み解く視点

1. 注目したい指標を選択する



- ▶ すべての指標で改善・100%を目指さなくてよい。
- ▶ 自校で目指す目標、大切にしていることに近い指標はどれか?

2. 実感と結び付けて考える



- ≫ 数値を「結果」として単に受け入れるだけではもったいない。
- ▶ なぜその結果が出ているのか?などを実際の取組や現場の実感と結び付けて解釈する





評価結果を読み解く視点

3. 組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりを捉える



関連性は? 成果の出やすい組織や関係者の在り方になっているか?



IV. 読み取りのワーク①

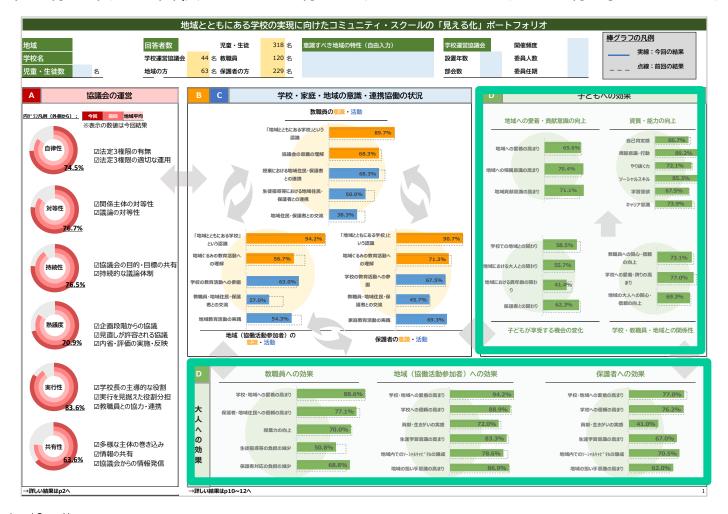




CSの目標に沿って指標を抽出する

◆ 注目したい指標を抽出する

- ✓ CSポートフォリオには多くの指標が含まれていますが、すべての指標で100%を目指す必要はありません。
- ✓ まずは、成果指標の中から、自校で目指す目標、大切にしていることに近い指標を抽出することが重要です。







ワーク1:CSで期待する成果とは?

ワーク1-1 (想定所要時間5分)

ポートフォリオ1ページ目総括表の

D:「子どもへの効果」「大人への効果」

→詳細の指標は5~8ページ

● あなたが関わる学校や地域では、CSを導入することで、<u>どのような成果</u>を期待していますか(どのような目標を掲げていますか)? それを踏まえて、ポートフォリオの<u>CSの成果に関する指標</u>を見たときに、特に着目したい指標はありますか?

(例:「児童・生徒の地域への愛着を高めたいと思っている。それに関連する指標は・・・・。」など)





ワーク1:CSで期待する成果とは?

ワーク1-2 (想定所要時間5分)

● 選択した指標について、次の観点から、結果の振り返りを行ってみましょう。また、2~3人で、結果を見 て気づいた点を共有してみて下さい。

観点①:肯定的回答の「割合(%)」は、あなたにとって、「高い」と感じますか?「低い」と感じますか?

観点②:その「割合(%)」を、あなたはどこまで「高めたい」と感じますか?

観点③:「前回調査との差」や「他地域との差」(プラスなら自校・今回が高い) はどうですか?

(例:「生徒の自己肯定感を重要な指標だと考えているが、意外と%が低い(前回調査から伸びていない)」など)



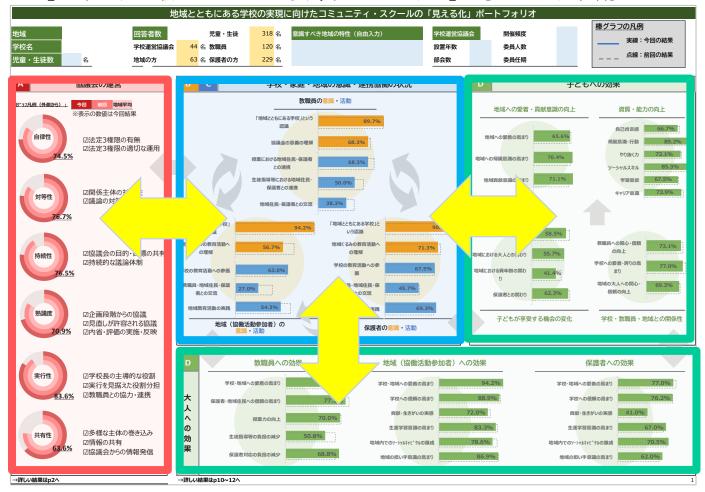
V. 読み取りのワーク②





各要素のつながりを考えてみる

- ◆ 成果と、組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりを捉える
- ✓ 成果発現までの要素間は、相互に関係することが検証されています。
- ✓ 「CSポートフォリオ」の深い読み取りのためには、要素間の「つながり」を考えることが有効です。







ワーク2:つながりの読み取り(関係者の意識・活動)

ワーク2-1 (想定所要時間10分)

1ページ目総括表の**BC:学校・家庭・地域の意識・連携協働の状況** →詳細の指標は**3~4ページ**

● ワーク 1 で考えたCSの成果(目標)をふまえ、ポートフォリオの「学校・家庭・地域の意識・連携 協働の状況」に関する指標を見たときに、関連する指標はありますか?

教職員の取組、地域の取組、保護者の取組など様々な視点があると思います。ご自身の立場から、思いつくものを挙げてみてください。 (例:「子どもの地域への理解を深めるために、地域住民の授業への参画を積極的に行っているはずだ。それに関連する指標は…。」など)





ワーク2:つながりの読み取り(関係者の意識・活動)

ワーク2-2 (想定所要時間5分)

● 選択した指標について、次の観点から、結果の振り返りを行ってみましょう。また、2~3人で、結果を見て気づいた点を共有してみて下さい。

観点①:肯定的回答の「割合(%)」は、あなたにとって、「高い」と感じますか?「低い」と感じますか?

観点②:その「割合(%)」を、あなたはどこまで「高めたい」と感じますか?

観点③:「前回調査との差」や「他地域との差」(プラスなら自校・今回が高い) はどうですか?

(例:「地域と協働した授業づくりを進めているつもりだったが、意外と関連する指標の%が低い(前回調査から伸びていない)」など)





ワーク3:つながりの読み取り(協議会運営)

ワーク3 (想定所要時間10分)

1ページ目総括表のA:協議会の運営

→詳細の指標は2ページ

- ポートフォリオの「協議会の運営」に関する指標を見たときに、気になる項目・数値はありますか。
- その数値と関連しそうな、「学校・家庭・地域の意識・連携協働の状況」や「子どもへの効果」「大人への効果」に関する指標はありますか?

(例:「共有性の指標の%が全体的に低い。これが、教職員や地域・保護者の意識が伸び悩んでいるのと関係があるのではないか。」など)



おわりに





評価結果を読み解く視点(再掲)

1. 注目したい指標を選択する



- ▶ すべての指標で改善・100%を目指さ なくてよい。
- ▶ 自校で目指す目標、大切にしていることに近い指標はどれか?

2. 実感と結び付けて考える



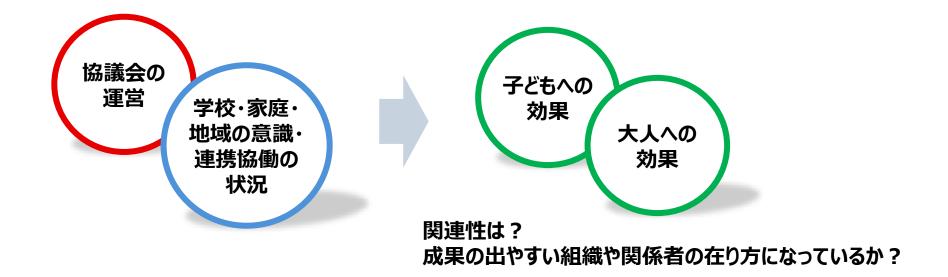
- ≫ 数値を「結果」として単に受け入れるだけではもったいない
- ▶ なぜその結果が出ているのか?などを実際の取組や現場の実感と結び付けて解釈する





評価結果を読み解く視点(再掲)

3. 組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりを捉える





評価結果を「次の一手」につなげる

- ☑ 評価は実施して終わりではなく、評価結果をもとに、「次の一手(取組の改善)」につなげることが重要です
- ☑ 是非、各校の関係者の皆様で結果を共有し、「次の一手」を検討するための手掛かりとしていただければと思います
- ☑ 「次の一手」は一人で作り上げることはできません。関係者の皆さんで対話をしながら、考えてみてください!





CSポートフォリオを、各校・地域のCS運営に役立てていただけますと幸いです。





